

# キャリアコンサルティング技能検定1級 学科・論述・面接試験 体験記

2020年 3月 30日

1級受検番号 NO 03F1620200 氏名 金丸健人 (東京都在住)

<b>■ 1級技能士を目指したきっかけ</b>
2級取得後、仕事の中でマネジメントやリーダーの役割に従事した際、自分の力不足を感じたことがきっかけでした。指導者の立場が期待される1級にチャレンジし、日々の仕事でも今後、責任ある立場を担う力を向上させる、何らかのきっかけを得たい、という思いでした。
<b>■ 当初の勉強法</b>
2級の時と同じような方法のまま、臨んでいました。学科は2級の延長でも勉強の「量」でカバーできました。しかし実技は、開始当初は1級専用のテキストがまだ無かったのもありますが、振り返ると「指導者として期待されることは何か」や「1級試験の回答の“型”」を分かっておらず、「片手落ち」の状態(CCスキルのみで得点が偏る)だったと思います。
<b>■ 合格のきっかけ</b>
1級技能士の会の『1級実技試験合格バイブル』で、実技(論述)の「出題パターン(CCの癖)」や「各問で見られているポイント」、「解答文の型」を掴んだことです。それによって実技(面接)との繋がり、実技試験の全体像を意識でき、出題内容や面接のロープレ相手によって左右されず、落ち着いて試験に臨めるようになりました。
<b>■ 学科試験の勉強</b>
過去問(2級、1級)を解き、『青本』で知識を補う、を繰り返しました。具体的には、間違えた箇所を2パターン(①自信があったが間違えた→勘違い or 勉強不足、②自信がなくて間違えた→無知)に分け、①思い込みと②無知の違いで、知識の入れ方に差をつけました。
<b>■ 論述試験対策</b>
2回目の試験前に技能士の会主催の「実技1日講座」に一度通い、3回目の試験前に「1級合格バイブル」を購入。問題の特徴(CCの癖)、設問毎に問われていること、解答に必要な要素、模範解答等から、「解答の型(複数要素を盛り込む、文の締め方)」を固めていきました。おかげで問題文に左右されず、CCの癖を読み解いた上で、解答の型(ゴール)を意識しながら必要な情報を抽出して書くやり方で臨めるようになりました。(直前の勉強量も少なくなりました。)
<b>■ 面接試験対策</b>
評価区分毎の意識をして準備し、基本的態度や関係構築は「冒頭の入りの型」を固め、確実にしました。私は「問題把握+具体的展開」の得点不足の解消が課題だったため、「①ロープレ後半(CCへ問題指摘+問題の同意+具体的指導)」、「②口頭試問(やったことの反省+指導しようとしたことを具体的に伝える)」の意識を徹底しました。本番は、「CCの問題点へ踏み込む勇氣」と、「本気でCCを指導する気持ち(を口頭試問でも伝える)」を大事にしました。
<b>■ 受検される方へメッセージ</b>
1回目で合格できる方もいるので一概には言えませんが、複数回かかる覚悟は必要かもしれません。私は受検を重ねる毎に不足点、弱点が明確になり、1回毎に少しずつ改善を繰り返しながら4回目で合格に至りました。年1回なので気持ちの継続が大変ですが、1級を取る目的を思い出し、気持ちを切らさず数年はかかる覚悟して、自分自身の課題と向き合い続けることだと思っています。